

会議録

会議の名称	令和元年度 西東京市青少年問題協議会 第2回
開催日時	令和元年10月9日(水) 午前9時30分から午前10時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎議会棟4階 第3委員会室
出席者	委員：住田副会長、内山委員、川合委員、喜多見委員、佐藤委員、鈴木委員、高田委員、高橋委員、西嶋委員、西原委員、保谷委員、山崎委員 事務局：子育て支援部長 古厩、子育て支援部副参与兼子育て支援課長 清水、子育て支援課調整係 栗林、木村 欠席者：平見委員、古舘委員
議題	1 協議事項 第9期西東京市青少年問題協議会活動報告書について 2 その他
会議資料の名称	会議次第 第9期西東京市青少年問題協議会報告書(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>◆前回会議録の承認</p> <p>1 協議事項 第9期西東京市青少年問題協議会活動報告書について</p> <p>○座長： 事務局から説明をお願いします。</p> <p>○事務局： 第9期協議会の任期は平成29年11月1日から今月末までであり、報告書(案)はこの間の活動について記載している。皆様方で内容をご確認いただき、ご協議のうえ確定していただきたい。</p> <p>○座長： 皆さん方からご意見・ご質問があれば出していただきたい。</p> <p>○A委員： 12ページにあるヒアリング先の名称に誤りがある。修正してほしい。</p> <p>○B委員： 9ページの「事例紹介」は「事例紹介から」等と変えて個々の事例は削除し、全体に説明した内容だけにしていきたい。</p> <p>○C委員： 子ども家庭支援センターのヒアリングで挙げられた事例も掲載の可否を確認した方がいいと思うがいかがか。</p>	

○事務局：

子ども家庭支援センターには原稿を確認してもらい、掲載可との回答を得ている。

○座長：

では、先ほど出た委員意見を事務局で反映したものを皆様方にメール等でお送りして確認していただき、確定という形にしたい。

(異議なし)

○A委員：

配布先はどのようになるのか。主任児童委員部会では毎回協議内容を報告していて、是非報告書を読みたいと言われている。委員の選出団体には配布をお願いしたい。

○事務局：

選出団体宛てには1部ずつ配布する。主任児童委員部会には人数分をお送りする。そのほか追加の配布希望がある場合は事務局にお申し出いただきたい。

○D委員：

ホームページ等でも見られるのか。

○事務局：

掲載する予定である。

○C委員：

自分の持っているものをコピーして渡しても構わないか。

○事務局：

問題ない。

○座長：

ほかに、報告書についてのご意見はないか。

(なし)

○座長：

では、協議事項はこれで決定とする。

任期中の会議はこれで最後となる。総括として感想などをお伺いしたい。

○A委員：

SNSはすごくホットなテーマだったと思う。先日囲碁で名人になった10代の方も最初はゲームに興味を持ったということだった。今の時代では欠かせないものになっているという気がする。

お手元にチラシを2枚お配りした。1枚はネット依存をテーマに育成会が企画した講演会のもの、もう1枚は、子ども放課後カフェが市の助成金を得て行う事業で、子どもへの声のかけ方の研修のものである。ご都合がつく方は是非ご参加いただきたい。

○E委員：

SNS関係で、お金がかかるためにスマホを持たせられないことが原因で子どもがはじめにあっているという相談を受けたことがある。必需品という前提でスマホを持たせている親御さんたちは相当にお金をかけているのかなと思う。それで子どもは子どものやり方でスマホを使って、子どもをスマホに依存させてしまっているような状況を、親としてはどう考えているのかなと思っていた。今回皆様の考えをもらえたのは大変いいことだと思った。

○F委員：

以前、市内で知らない者同士だった子どもたちが10人ほどSNSでつながって重大な事件を起こしたことがあった。その時に、全く知らない者が関わって行って、本人には全然そんな気がなくても犯罪の方に行ってしまうということを聞き、SNSはすごい魔物だなと思った。SNSの問題は是非引き続きとりあげていくべきだと思う。

○G委員：

中学校では、講師を招いて予防・啓発のための講習等は勿論行っているが、現実問題として、毎日のようにトラブルに対応している。早期発見・早期対応で丁寧に子どもたちに付き合っていくしかないと思う。

都立高等学校入試では、次年度から児童の携帯電話持参を認めるという判断があった。これまで禁止はしていたが、現実的にはかなりの数の児童が持参していて、スマホで確認しながらゆとりをもって試験会場に到着できるなら、持参せずに道や乗換えて迷ってギリギリで不安になるよりも、怒られるのを承知で持たせた方がいいとかいう保護者の声がたくさんあった。うまく付き合わなければいけない時代に、大人も頭を切り替えなくてははいけないのかなと思っている。

○座長：

高校に入ると、連絡は全てスマホでするのでスマホを持ってくださいと指示がある。今はそういう時代だと知ってびっくりした。

○H委員：

大学に入ると、履修登録もレポートも全てスマホで、スマホの使い方を知らないとどんどん遅れていってしまうので、スマホを使うこと自体は必要だと思う。

私が懸念しているのはLINEである。大体の中学生は行動範囲が狭いのでLINEの世界が自分の世界になってしまい、そこでのやり取りが生活の全てになってしまうことが問題なのではないかなと思う。高校に行くと、子どもたちもうんざりしてくるのと、グループもたくさんできるのでいちいち気にしられず大事なところだけ返信するようになっていたりして、LINEが生活の中の大きな部分を占めなくなってゆく。中学生の間だけは、怖いこともいろいろあるので、子どもから拒否されたとしても保護者の方が断固としてチェックするといった努力も必要なのではないか。

○I 委員：

皆さんのお話を伺って自分自身が勉強になった。SNSの活用は数年前から大きな問題が出ていて、現状ではセーフティ教室等が行われているが、それだけでいいのかなという感想を持った。大部分の中高生は問題ないと思う。どうしても問題になる一部の方々に対する指導が足りないのか、もう少しやり方があるのかその辺が気になった。これからもいろいろ議論を深めて、まとめて終わるだけでなく、対応をいろいろと検討していけると有意義なのではないかと感じた。

○座長：

この青少年問題協議会は協議会であって事業を実行する団体ではないので、ここで発案された活動をここに集まっている方たち実際に動ける団体でやろうとって始めたのが、社会を明るくする運動実施委員会で行っているあいさつ運動と環境浄化活動である。その辺も含めてよろしくお願いしたい。

○J 委員：

SNSに関しては、スマホを持つ子どもがますます低年齢化していくのではないかと考えている。親は子どもが心配で連絡手段として持たせたいし、今の子どもたちはナビゲーションがないと地図だけでは目的地にも行かれない。そうするとSNSとかとはまた違う、誘拐だとかそういう問題が出てくるのではないかと考えている。

SNSに関してはこれからまだまだ知っていけないといけないだろう。親子で話し合うのは難しく、子どものスマホを強引に見ることはなかなかできない。どういうふうにしたらいいかというのを、親に指導していかなければいけないのかなと考えている。

○D 委員：

今子どもたちが一番なりたい職業はユーチューバーだそうで、小中学生の投稿が非常に多い。中学生ならまだしも小学生は親御さんが一緒にやって投稿しているとしか思えない。子どもだけではなく親の管理の問題もかなり大きいのかなと思う。SNSの目的を明確にしてちゃんと教えていかないと、子どもたちも勘違いしてしまうのではないかな。SNSは本名で参加している人はほとんどおらず身元が全く分からない人たちが集まるので、多くの危険が潜んでいる。これは自分でSNSを主催して経験して学んだことである。今後もSNSを取り上げていながら皆様方と勉強していきたい。

○C 委員：

わたしはこれまで地域の中での活動はしていたが、市の方で何かをするのは初参加だった。市民の声というのは、いろいろな方が協議したものがこうやってまとめられているのだと、新しい目で見ることができた。

SNSについては、私は中学生の親で頑張らなければいけないと真ん中の家庭として、本当に困っているというのが現状である。報告書に「親がまだついていけないのではないかな」という一文があって、困っている現状を市民の声として市長に届けられたかなと考えている。

子育ては本当に大仕事で、いっぱいいっぱいになっている親御さんもたくさんいる。教育委員会では、制限をするというよりも、子どもたちにどうあるべきかのマナーを学

ばせているという話だった。親もそれに寄り添えるように一生懸命勉強したいが、勉強すべきだけでも勉強できる場所が分からない、困っているという親御さんには地域が寄り添っていただくというのを何とかお願いできないかなと思っている。そういうトライアングルのようにできるといいなと思ったので、次期の活動で反映していただければ嬉しい。

○K委員：

はじめSNSの話になった時に、文字ばかりの関係性でコミュニケーション不足ではないかという思いがあった。でも今は当たり前であって、例えば、自分の迷ったことを調べるとすぐに答え出る。正しい使い方をするとなんか優れたものはないが、こんなに便利だと、人が関わらなくても子どもは育てられるのかという思いがある。

でも、子ども家庭支援センターのヒアリングで、姿を見て初めて始まるというのを聞いて、やっぱり人とのつながりが大事なのだということを感じた。教育委員会のヒアリングでは、いかに正しく使うかということをお話していると聞いた時に、何でも禁止するのではなくて、正しい使い方ができるということが大事なのだなと感じた。

本当に大人がしっかりと理解しながら子どもに接していかなければいけない。警察の事例を聞いていると悪いことがたくさんあるけれども、そういうことに入らないように子どもたちを導いていくというのが教育であるんだなというのを感じている。

○B委員：

以前、聴講したネット犯罪対策の講義の中で、青少年に関して自撮り被害の増加があった。一度インターネット上で流された写真は、半永久的にネット上に残ることになる。被害を防止するため大人が子どもたちに関心を持ち、あたたかい目で見守っていただきたい。

○座長：

今回テーマにしたSNSの問題はたくさんの方から話を聞いたかったが、子ども条例の策定と時期が重なってしまった。このテーマは次期で子どもや親や教師から直に話を伺ってもう少し深めていった方がいいのではないかと考えている。ここで任期が終わる方はあとの方に引き継いでいただけるといい。事務局もぜひよろしくお願ひしたい。

2 その他

○事務局：

第9期協議会の任期は今月末までで、会議は今回で最後となる。お忙しい中お集まりいただき、報告書も取りまとめることができたことを感謝申し上げます。

(了)